

4 「ニューひょうご味どり（仮称）」の開発

ねらいと成果

「ひょうご味どり」の増体性を改良し、生産費の低コスト化により生産羽数を拡大するため、一般的なブロイラー種鶏（羽毛色優性白色プリマスロック）を利用した「ニューひょうご味どり（仮称）」を開発した。従来のものに比べて、発育性に優れ、飼料効率が良い。食味は差はないが、正肉歩留まりが多い。

内容

試験区分

区	交配様式
試験	兵庫♂×優性白色プリマスロック♀
対照	兵庫♂×劣性白色プリマスロック♀

試験期間：84日間（官能検査用に一部112日間）

供試羽数：各区18羽、計36羽

飼育方法：開放鶏舎、ケージ飼育、7週齢以降雌

雄別飼、不断給餌、自由飲水、点灯

給与飼料：28日齢まで採卵鶏幼雛用、以降ブロイラー仕上用

試験区は、対照区より増体性が優れた（表1）。試験区は、対照区より飼料要求率が優れ、1羽当たりの飼料費は両区ほぼ同じであった（表2、3）。育成率は同程度であった。産肉能力は、むね肉割合が試験区が対照区よりも優れ、正肉歩留まりが高い傾向が見られた。もも肉の色の赤味は対照区が試験区よりも強かった。もも肉を塩焼きした官能検査では、食味に差はなかった（表4）。

今後の方針

但馬地域において年間約7万羽を目処に生産する。カニ殻の飼料添加などによる高付加価値化を図る。

龍田 健（畜産技セ・家畜部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2430）

表1 週齢別の雌雄平均体重（g、最小自乗平均値±標準偏差）

区分 \ 週齢	0	2	4	6	8	10	12
試験区	44.1±0.6 ^a	280±5.2 ^a	739±20 ^c	1,396±28 ^c	2,177±42 ^c	2,783±55 ^c	3,373±68 ^c
対照区	40.1±0.6 ^b	249±5.2 ^b	670±20 ^d	1,289±29 ^d	2,022±44 ^d	2,588±57 ^d	3,161±71 ^d

異符号間に有意差あり ^{a,b} p<0.001, ^{c,d} p<0.05

表2 飼料要求率

試験区	♂	2.37
	♀	2.83
	平均	2.60
対照区	♂	2.39
	♀	3.13
	平均	2.76

表3 飼料費（円）

試験区	♂	457.9
	♀	410.1
	平均	434.0
対照区	♂	461.3
	♀	412.6
	平均	437.0

表4 官能検査得点

試験区（84日齢）	4.08
対照区（84日齢）	3.73
対照区（112日齢）	3.98

5段階評価（5：うまい～1：まずい）



図 出荷直前の「ニューひょうご味どり」